事業事前評価表（開発調査）

作成日：2002年7月31日 担当部・課：農林水産開発調査部農業開発調査課

1. 対象事業名：タイ国ランパチ川流域農村農業開発における参加型計画適用調査

2. 我が国が援助することの必要性・妥当性

(1) 現状及び問題点

本地域は、タイ国西部のミャンマー国境からタイ湾に流下するメクロン川支流ランパチ川流域に展開するサトウキビ等の畑作を中心とする農業地帯である。年平均世帯収入（1992年値）は、15,987～30,355バーツであり、全国平均の37,647バーツを下回っている。メクロン川流域は、クワエ・ノイ川、クワエ・ヤイ川、メクロン川本流の3流域よりなり、ランパチ川流域はクワエ・ノイ川流域に属し比較的平坦な農地が多い。

周期的なモンスーンはメクロン川流域の農地や農村にしばしば洪水被害をもたらしている。特に1997年はランパチ川流域の被害が最も大きく、多くの家屋、農業施設、農地などが被害を被った。被害地域の回復や洪水被害の再発防止のためには、地域住民の農地復旧に対する要望や干害被害に対する対策の要望を踏まえ、王室灌漑局が十分なインフラ整備を行うことが最重要課題となっているが、同局の計画策定機能や能力は十分ではない。

このような状況に鑑み、同国政府は平成12年9月20日、我が国に対してタイ国 ランパチ川流域住民参加による農村農業開発計画調査の実施と同調査を通じた「参加型開発手法」についての技術移転を要請してきた。

タイ国 の要請に対して我が国は、2002年1月に事前調査（S/W協議）を行った。

(2) 国家開発計画、地域開発計画、分野別計画などの計画と当該案件の整合性

第9次国家経済社会開発計画では、「参加型開発」について次のように記載している。

a. 参加型地域管理運営メカニズムの改善を早急に推し進める。

b. これらの管理運営を持続的に進めるための基礎として参加型開発を導入する。

これにより、都市及びコミュニティの草の根経済開発の促進と自立を図り、雇用を生み出し、所得を増加させ、農村と都市における貧困問題を緩和する。

本調査は、住民参加のプロセスを取り込んだ王室灌漑局による事業計画の策定を支援するもので、上記計画に沿ったものである。

(3) 他国機関の関連事業と当該計画の整合性

メクロン川流域は、1970年代に水資源開発のM/P策定後、我が国の協力による「メクロン川流域カンペンセン灌漑農業開発計画（F/S）」のパイロットプロジェクトや世界銀行の支援により「大メクロン灌漑事業（GMIP）」が実施された。その結果、スパブリ県、ナコンパトム県、ペチャブリ県のメクロン川下流域において約3百万ライ（480,000ha）が灌漑されるようになった。これら事業は下流域のみを灌漑対象としていることから、本調査では系統だった灌漑開発事業の実施されていないランパチ川流域を含む中・上流域を対象とすることとした。

(4) 我が国の当該国への基本的な援助方針との整合性

事業団が策定した「タイ国・国別援助方針」では、農村開発分野における問題解決のための方向性として、1）農業開発計画の企画/実施への農民参加の促進、2）小規模農民の農業経営能力強化、3）土地・水資源の保全に配慮した持続可能な農村開発の推進を挙げている。本調査はこれら方向性に沿ったものである。

3. 事業の目的

住民参加によるランパチ川流域開発計画の策定と、これを通しての農業協同組合

省王室灌漑局職員の計画策定能力の向上、及び計画実施による地域の農家所得の向上とを目的とする。

4. 事業の内容

(1) 対象

a. 調査対象：ランパチ川流域（カンチャナブリ県及びラチャブリ県）

b. 技術移転の対象：第一にタイ国農業協同組合省王室灌漑局職員、第二に地方行政職員

(2) アウトプット

a. ランパチ川流域全体の課題や対策が住民参加により明らかにされる。

b. ランパチ川流域内の優先地区において具体的な課題や対応策が明らかにされる。

c. 王室灌漑局や地方行政組織の課題や対策が明らかにされる。

d. 参加型調査・計画立案方法がカウンターパートに技術移転される。

(3) インプット

a. コンサルタント（分野・人数）

分野	人数	分野	人数	分野	人数
総括/かんがい排水計画	1	地下水	1	水文・水理	1
環境	1	参加型計画	1	栽培	1

b. その他

- 現地再委託（地下水、参加型計画）
- 調査に必要な機材の購入（視聴覚機材）

(4) 総事業費

調査に要する費用：約1.5億円

(5) 調査スケジュール

2002年10月～2005年2月

(6) 実施体制

a. 協力相手国実施機関名：農業協同組合省王室灌漑局

b. 協力相手国実施機関の責任者：局長

5. 成果の目標

(1) 提案計画の活用目標

- ランパチ川流域開発計画による具体的な事業が実施される。
- 住民参加型計画手法により他地区の開発計画が策定される。

(2) 活用による達成目標

- 王室灌漑局及び地方行政組織が活性化する。
- 地域の農家所得が向上する。

6. 外部要因リスク

ランパチ川に対するタイ側のニーズが変化しない。

王室灌漑局の大規模な組織替えがない。

王室灌漑局が担当する調査に遅れが生じない。

7. 今後の評価計画

(1) 事業評価に用いる指標

マスタープランで提言した事業の実施状況

農作物の反収・農家所得

洪水・湛水の被害額及び被害面積

新規のかんがい排水整備面積

(2) 評価する方法及びタイミング

フォローアップ調査によるモニタリング（17年度以降毎年）